

# 都市内分権の動態と展望

民主的正統性の視点から

石平春彦 著

定価(本体3,500円+税)

2010年11月15日発行

## 都市内分権の 動態と展望

民主的正統性の視点から

石平春彦

香川県・上越市議員  
【清政大学大学院比較行政文化研究所 特任研究員】



■全国の地域自治区等の実態を網羅的に調査・分析！

■政府に「小さな自治」の制度改革を迫る！

■最先端を行く上越市の事例を克明に活写！

公人の友社

日本の基礎自治体における本格的な都市内分権は、21世紀初頭の市町村合併を契機とした地域自治区制度などの導入により具体化・一般化し、全国的に波及することとなりました。

この制度は、広域化する基礎自治体において、地域レベルの自治を維持・充実し、あるいは新たにその仕組みを創出することにより、住民自治の拡充や地域力の向上に寄与し、ひいては地方分権・地域主権時代に求められる基礎自治体の自主自律性の基盤ともなることが期待されています。

本書では、広域化する基礎自治体における地域自治区等の制度について、そこに置かれた地域協議会等の住民代表機関の「民主的正統性の確保」に注目しつつ、その立法過程と制度運用の実際について明らかにするとともに、全国の制度導入自治体の比較や事例観察を通じて、その意義や有用性の如何を調査・分析、考察します。

(「はじめに」より)

### 目次

はじめに